

# 医心 伝心

## 平成27年度（第70回） 富山県医学会を振り返って

県医師会理事 清水 康一

平成28年3月13日(日)に富山県医師会館にて開催された平成27年度（第70回）富山県医学会の概要を報告します。内容は、「オール富山地域連携・病病連携・病診連携」と題した口演セッションおよびポスターセッション（一般演題）を中心に、ランチョンセミナー、県医師会医学研究助成金交付研究の結果報告などが行われました。「オール富山～」には19題、一般演題には46題、計65題の演題を発表いただきました。発表者の業種別には、医師 31題（うち研修医 2題）、看護師 15題、保健師 1題、臨床検査技師 5題、管理栄養士 3題、リハビリ・スタッフ 3題、医療社会福祉士 3題、薬剤師 1題、事務職 1題、医学生 2題、と幅広い部門からの発表がありました。ランチョンセミナーでは、鈴木裕介先生（名古屋大学医学部附属病院 地域連携・患者相談センター 准教授）に『老年症候群としての転倒』と題したご講演をいただき、高齢者社会における転倒予防の重要性を教えてくださいました。研究助成金課題研究報告として、『人間ドック検診時に於ける頸動脈エコー検査の結果と分析 - 動脈硬化症予防対策の有用性について -』西谷 泰先生（富山市医師会健康管理センター：平成27年度）、『気管支閉塞法による側副換気の評価検査』宮澤秀樹先生（富山県立中央病院呼吸器外科：平成25年度）の2題を発表いただき、また平成28年度の助成金交付を11題の研究課題に対して行ないました。

従来の富山県医学会は、県医師会医学研究助成

金交付式と助成研究の結果報告および特別講演という内容で開催されてきましたが、あまり活発な活動とはいえず、参加者も多くありませんでした。そうした状況を改善すべく馬瀬会長の強い意向に沿って、昨年度の第69回から、多くの会員が興味を持って参加できるような、そして参加することが楽しみとなるような会を目指して、医師だけではなく医療スタッフや医学生も参加し発表してもらうという形式で開催するようになりました。参加意欲を高めるための工夫として医学会賞を設けました。今回、演題数は昨年度の37題に対して65題と大幅に増え、予想以上の多さに驚いたほどでした。また、参加者数も昨年度の179名を大きく上回る256名となりました。医学会賞は一般演題の中から、最優秀賞 1題、準優秀賞 2題、優秀賞 9題を選出し、副賞として図書券・クオカードが授与されました。

今回は南里常任理事のご尽力でプログラム・抄録集は大変立派なものができあがりしました。内容的にもたくさんの演題発表があり、多くの方に会場へ足を運んでいただき、非常に素晴らしい充実した学術集会になったのではないかと思います。一方で、いくつかの地方会と開催日が重なってしまったことや、演題数の増加により会場が手狭になったことなど次回の改善課題として挙げられます。来年度もさらに継続して発展させ、富山県の医療関係者の交流がますます深まる医学会になればと思います。